

中学校区におけるめざす子ども像		「自らを律し、自ら学び続ける子」		堺市立美原西中学校 校長 泉谷 浩幸	
令和6年度 重点目標 □教師と生徒が共に目指す最重要共有目標を次の通り定める： ●1.「強みを見つけてコツコツと、楽しく学び、自ら学ぶ西中生」 2.「時を守り、場を清め、礼を正す」 ◇具体的な取り組みとして、以下を実施する： ①教師は生徒の強みを発見し、それを育成するとともに、学びと活躍の機会を提供する。 ②学ぶことの楽しさを伝え、魅力的な授業を通じて生徒が学びに喜びを見出すよう努力する。 ③教師と生徒は、社会の模範となる行動を心掛け、学習しやすい環境を維持する。 ④「L-Project」を意識して実行することで学びの意欲を向上させ、最終的に学力向上を図る。このプロジェクトでは「教師が好き、教科が好き、学ぶことが好き、繋がりが好き」という要素を重視する。これら取り組みを踏まえ、『学力向上』と『静謐な学習環境整備』を推進し、更なる学校力向上と次元上昇を目指す。					
「確かな学び」の現状 一昨年度・昨年度と進めてきた研修の成果が徐々に実を結び、生徒の授業に対する肯定的な意見が増えてきている。また、ICT 機器の利活用の機会も充実し、よりスムーズに授業に取り入れられるようになった。一方で、各種統一テストの正答率は依然として十分とは言えない。授業への関心は高められつつあるが、確かな学力として定着していない部分がある。積極的に取り組みたくなる授業づくりと併せて、課題設定に工夫を凝らし、家庭学習の習慣も定着させる必要がある。ICT 機器が当然の学習手段として選択肢に入るような普段の指導を心掛け、生徒たちはいつ如何なるときにおいても自由に自分らしく学習できる環境作りを支援する。			「豊かな心・健やかな体」の現状 ・教育活動全体を通じて、多様性を認め合い、自らの人権を尊重されていることを実感できるような学校教育を推進してきた。公的な複数のテストで実施されたアンケートでは、「自己肯定感」や「他人を思いやる心」についての肯定的な回答が多く見られた。しかし、一方で「将来の夢や目標」に関する質問では、認識が低い結果が出た。これは、生徒たちが自己肯定感を持っているものの、それを具体的な目標や夢に結びつけることができていないことを示唆している。この点に基づき、さらに充実したキャリア教育の提供が必要であるとする。・全国体力・運動脳力・運動習慣調査で、全国平均を下回る結果となった。さらに、運動系部活動に参加している生徒の割合も全国平均を大幅に下回っている。この問題に対処するため、体育授業、食育、およびみんいく教育に新たな工夫を加え、生徒の心の充実と健やかな体の向上を目指す。		

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況 (年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	【学習リズム】	学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子供の育成	●個別最適化された学びの場を提供し、生徒が学びスタイルを選択できるようにする。そのために、ICT 機器を自然と選択肢に入れられるように普段の教育活動において使用機会を多く取り入れていく。	「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT 機器を、どの程度使っていますか」の質問項目への肯定的な回答が70%を超える。	①学校アンケート ②授業の様子	② 3学期 ②通年	A 研修を計画的に行い、ICT 機器の授業での使い方に関して理解を深めることができている。今後はただ使用するだけでなく、効果的な使用について研修を続けたい。	A 発表については 69%と若干目標値に届かなかったが、調べてまとめる点については80%と高い校庭回答となった。今後も ICT の活用ができるよう取り組んでいく。	A ホームページで子どもたちが楽しく授業をしている様子がよくつかえ、生徒が授業に参加しともに作り出そうとしての姿を感じる。また、ICT 機器をうまく活用しているので今後もさらに取り組んでもらいたい。
		授業改善 生徒が授業を好きになる、「L プロジェクト」をスローガンに、教職員全員で授業改善を図る。	●Like・Love 「その教科の授業が好きになる」ような、生徒たちの実生活に基づいた本質的な問いを授業の課題として充てる。また、教員と生徒の関係性も影響すると考え、日ごろの密なかかわりを意識して持つ。	各統一テストのアンケートにおいて、「○○(各教科)の授業は好きですか」という質問項目に対する肯定的な回答が70%を超える。	各種アンケート	通年	A 教科学習を好きになる仕掛けとして、学習方法や協働・個人ワークの選択をすることの持つ意義を研修で共有することができた。	B 例年に比べ、職員研修を機会を多く持つことができた。子どもたちの協働や自己選択を授業中に促す良さを職員全体で共有し、実践に生かすことができた。また、具体的な	A ・L-プロジェクトがわかりやすく良い取り組みである。 ・校内研修が計画的に実施され、インフルエンサーの先生の協力もあり、充実した研修が行えている。
			●Learn 授業での学びがより深いものになるように、探究的な課題に対して個人・ペア・グループで取り組ませる授業を展開する。より効率的な意見のシェアや、自分の考えの発表のために、生徒がICTを扱うスキルを育む。	授業参観・研究授業および討議において、実践されているかどうかを観察する。	実施状況	通年	B おおむね順調に進んでいるが、子どもの学びが深くなる課題や発問に関しての具体的な教師側の探求は進んでいない。段階的に教科の見方・考え方への理解を深める研修を進めていきたい。	A 場面を想定した実践形式の研修を行うことにより、各教科の教員が具体的にイメージをつかむことができ、従来の教え込みのみの授業から展開の幅が広がっている。課題	A ・校内研修の様子を見ると、先生どうしてコミュニケーションを通して考えを深めることができているようだ。 ・学習課題を探究し結論に持っていくこれからの授業の在り方を先進的に学校をあげて取り組んでいる。未来力を感じる。
			●Link 授業内において他者とのつながりを意識させ、相手意識をもって課題に取り組ませる。また、各教科や学年の縦横の繋がりに留意し、生徒が見通しを持って学習に取り組めるように支援する。	授業参観・研究授業および討議において、実践されているかどうかを観察する。	実施状況	通年	A 順調に進んでいる。授業内での他者とのつながりや、組織的・教科横断的な指導が子どもたちの今後の学びにどう影響していくかを注視していきたい。	A としては、「その教科が好きだ」という質問に対する肯定回答が目標をやや下回っており、より子どもたちが「学びたい・挑戦したい」と思える問い作りを研究していく必要がある。また、小中連携を伴う相互研修においても、まだまだ機会が少ないと言える。	A ・積極的に ICT を活用した情報収集の習慣づけや正確な情報の見極め方が指導できている。 ・各生徒の自尊心を高め、かつ相手を尊重する指導ができているように感じます。 ・これから、学校群をうまく取り入れ、小学校との連携をさらに深めてもらえたらと思います。
			★「小学校で何を学んできているか」「中学校で何を学ぶことになるのか」を共有し、教員が見通しを持って指導できるようにする。	授業参観・研究授業および討議において、実践されているかどうかを観察する。	実施状況 研修計画	通年	A 夏に開催した美原区合同の小中幼の夏季研修は、子どもたちの課題を共有する上で有意義なものであった。このつながりを今後も持ち続けたい。	B	
豊かな心・健やかな体	【心リズム】	■「優しさ」と「厳しさ」の中での信頼関係づくり。(優厳実行)	●「優厳実行」を意識し、「かかわり貯金」の中で生徒の「強み」を見つけ、活躍の場をプロデュースする。	「良いところがある」「得意なことをしている」「学校が楽しい」と肯定的に回答する割合が75%を超える。	IRT 調査等	3学期	— 日ごろから個々の「強み」を見つようにし、丁寧に関わりを持つことを心かけている。	A 肯定的な回答率は80%を上回った。生徒が自らの得意分野を認識し、主体的に活動する姿が多く見られるようになった。	A ・生徒の様々な活動がホームページや学校通信で発信され、生徒主体の活動ができているように思います。
		■人権尊重の精神を育てる。	●すべての行動、言動において人権意識・道徳意識をもって取り組む。	「友達を傷つけないようにする」「道徳の授業は大切だとおもう」と肯定的に回答する割合が75%を超える。	学校教育自己診断 IRT 調査等	3 学期	— 他人の立場に立って物事を考え、人を思いやる気持ちは多くの生徒の中で育てている。	B 判断基準の肯定的回答は80%を超え、人を思いやる気持ちや他人の立場で考える力が育まれているが課題も残る。	A ・体育大会の応援では、友達を気遣う心配りできていると感じました。また、生徒と先生の信頼関係が築けているとも感じました。 ・学校通信の記載などからも、男女平等を意識されていることを感じます。また、協調性を高める環境づくりもされています。
		■えがおあふれる学びの場づくり	●★いじめアンケート結果をその都度いじめ防止対策委員会』で共有し、防止と対策をする。	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」の問いに肯定的な回答が100%になる。	全国学力・学習調査等	3学期	— 集会や学活等でいじめ防止の啓発は頻りに実施しているが、課題はゼロではないので、更なる取り組みを続けてゆく。	B いじめ防止の意識は向上したが、肯定的回答は 94.9%にとどまった。今後、教育活動や道徳の時間を通じ、人権・道徳意識をさらに高める必要がある。	A ・いじめ防止についても強化されており、日々の生徒指導で生徒一人ひとりを見守ってくれていると感じました。
	【生活リズム】	■自ら律し、自ら学ぶ子どもの育成。	・学ぶ楽しさを伝え、家庭学習習慣を定着させる。 ●★毎単元・毎時の目標や頑張りどころを示す。	・「総合的な学習で自分の興味・関心から学習内容を自分でできているか」と肯定的な回答が75%を超える。	IRT 調査等 見取り	3学期 通年	B 学びをゆだね、個々が自ら考え学びたくなるような授業展開の工夫をしている。	A 学びのコンパスを意識し、自主的な学びを促す授業を工夫。学ぶ楽しさを実感できる取組を継続し、肯定的回答率 75%を達成した。	A ・古い校舎ですが、トイレや廊下がきれいに保たれています。 ・さまざまな生活環境がある中で、学校としてできる範囲で積極的に指導していると思います。
		■時を守り、場を清め、礼を正す	●★・授業前着席の習慣化 ・そうじ・整理整頓ができている静謐な環境作り。 ・返事・挨拶・感謝の気持ちの発声の促進。	「時間を守りバール着ができている」「そうじをしっかりとできている」「基本的なマナーが身についている」と肯定的な回答が75%を超える。	IRT 調査等 見取り	3学期 通年	B 登下校時等の挨拶ができる生徒が多くみられ、返事や感謝の気持ちを発声できる生徒が増えてきている。全学年において授業前着席が習慣化されている。	A 基本的な生活習慣が定着し、挨拶や感謝の気持ちを表現できる生徒が増加している。今後も継続的な指導を行い、更なる定着を図っていく。	A ・楽しく授業を受けている姿がほほえましい。学校で楽しさを充実している生徒が75%に達している。
地域協働	【信頼リズム】	■見える学校から 見せる学校へ	・教育活動などの学校情報を通信やHP・Tetoru 等で情報提供を行う。→「見せる」 ・PTAの役員・委員・西中応援会と連携しながら各行事・地域活動を行う。	・「学校から届く情報は、学校の様子を知らせるのに役に立っている」と肯定的に回答する割合が75%を超える。	学校教育自己診断	3学期	— 学校生活のようすを HP で頻りに発信できている。連絡ツールの Tetoru を活用しているが、登録率が85%程度にとどまっており、登録の推進が必要である。	B HP や Tetoru を活用し情報発信を強化したが、登録率は 94%にとどまり、さらなる周知が必要。肯定的回答は 74%で目標達成に近い結果が出ているが、引き続き発信内容の充実と認知度向上に努める。	A ・地域の一員として地域の学校を応援させていただきます。 ・頻りにホームページを更新しており、情報共有を大切にしていると感じます。また、PTA 活動にも積極的に参加いただき、地域を大切にされていると感じます。

校長より（年度末）

【学習リズム】

本年度は「L-Project」を立ち上げ、「Love・Like・Learn・Link」を意識した授業改善を推進しました。生徒が自主的に学び、探究的に取り組めるよう、学びのコンパスを活用しながら授業展開を工夫しました。また、ICT 機器を活用し、個別最適な学習環境を整えることにも取り組みました。その結果、生徒の学習意欲向上が見られましたが、統一テストの正答率向上にはさらなる工夫が必要です。今後も、効果的な授業実践と学習習慣の定着を図り、確かな学力の向上に努めます。

【心リズム】

本年度、「優厳実行」の理念のもと、生徒には「人に優しく、自分に厳しく」、教員には「個に優しく、全体に厳しく」を意識した指導を進めてまいりました。日々の道德教育や教育活動を通じて、人権尊重の精神を育み、いじめの防止・早期発見に努めました。また、「貢献心」を育むため、人の役に立つ行動を奨励し、感謝の気持ちを表現できる機会を増やすことを意識しました。その結果、多くの生徒が他者を思いやる姿勢を身につけ、肯定的な意識を持つようになりましたが、いじめ防止の面ではまだ課題が残っています。今後も生徒が安心して学び、成長できる環境を整えるため、より一層の取組を進めてまいります。

【生活リズム】

本年度は、生徒一人ひとりが自らを律し、学ぶ楽しさを実感できる環境づくりに取り組んできました。授業前着席や掃除、挨拶などの基本的な生活習慣は着実に定着し、多くの生徒が率先して取り組む姿が見られました。一方で、家庭学習の習慣化については、依然として課題が残ります。学校として、学ぶ意欲をさらに高めるため、授業の工夫や学習支援を充実させるとともに、家庭と連携しながら、自宅学習の習慣化に向けた働きかけを強化していきます。今後も、生徒が主体的に学び、規律ある生活を送ることができるよう、引き続き指導・支援を行ってまいります。

【信頼リズム】

本年度は「見える学校から見せる学校へ」を目標に掲げ、PTA や地域教育協議会と連携し、積極的な情報発信に取り組みしました。特に、学校行事や活動の様子を HP や Totoru を通じて発信し、地域の皆様と学校をつなぐ機会を増やしました。また、長年続いた「すこやかフェスタ」の終了を受け、新たに「夢見る小学校」の上映会や吹奏楽部の演奏会を実施し、多くの地域の方々にご参加いただきました。

これらの取り組みを通じて、学校と地域の信頼関係を深めることができましたが、情報発信のさらなる充実や、Totoru の登録率向上が今後の課題となります。引き続き、地域とのつながりを大切にし、開かれた学校づくりを進めてまいります。

学校関係者評価者から（年度末）

・テーマをもって積極的に校内研修に取り組み、学校全体でよい授業づくりに取り組み姿勢がとてもすばらしいです。内容もこれからの授業の在り方を先進的に取り入れたものになっており、これからの美原西中学校の成長が楽しみです。

・体育大会の応援合戦からも感じられる、子どもたちを主体とした学校の取組が、一人ひとりを尊重し、互いを高められる素晴らしい環境を作り出しています。これからもこの環境を大切にし、生徒と教師が互いに信頼しあい、互いに絆を深めあえる学校であり続けてください。

・学校が情報発信を活発に行ってくれていることで、学校の様子がよくわかり、地域との関係も良好だと思う。これからも、地域と学校がともに協力し合い、地域の子どもたちの成長にともに力を尽くしていきたいと思います。